

家庭教育力の強化を図ろう

～子どもたちの健やかな成長を支える家庭教育支援講座を通して～

幸田町立幸田小学校 P T A

1 学区及び学校の概要

本校は、明治8年（1875年）に大草学校として開校し、令和7年度に創立150周年を迎える。平成24年（2012年）のJR相見駅開業に伴う周辺地区の開発により、学区内の人口は急増し、現在、普通学級28、特別支援学級6、全校児童数896名の大規模校である。

2 研究のねらい

子どもたちの健やかな成長の実現のためには、学校・家庭・地域の連携は欠かせない。そこで、学校の教育方針の周知徹底を図ると共に、家庭の教育力向上を目的とする家庭教育支援講座を開催することで、学校と同一歩調で子どもたちの健やかな成長のための体制作りをすることができると考え、本研究に取り組むことにした。

3 研究の仮説

子どもたちを取り巻く様々な課題について取り上げ、親としての在り方を学ぶ家庭教育支援講座を通し、家庭の教育力を高めると共に、学びを通して親自身も様々な課題に対し、前向きに関わることができるであろう。

4 研究の方法

親としてどのように子どもと向き合っていくかを考える学びの場、保護者同士の関わりの場として家庭教育支援講座を開催する。実施方法は、ワークショップ形式の講演会とする。また、講座の内容については、『幸田小ふれあいだより』にて、全保護者に啓発する。

5 研究の実践

（1）家庭教育支援講座「性の多様性について

～保護者に知ってほしいLGBTQ+の子どもたち～

講師にスクールソーシャルワーカー・湊 明乃様をお迎えし、『性の多様性について～保護者に知ってほしいLGBTQ+の子どもたち～』と題して、講演をいただいた。

始めに、「一人一人が持つ、その大切な性を互いに尊重する」ことが、性の多様性の第一歩であることを話された。LGBTQ+の子どもたちは、「悩みを打ち明けられない」「悩みを打ち明けても理解されない」など、孤独感や孤立感を抱え、10代で精神疾患を患うリスクが大変高いこと、だから



【性の多様性について考える】

こそ、きめ細かな配慮・対応が必要であることをご教示いただいた。LGBTQ+の子どもたちが、その子らしく生きていくためには、周りがしっかり受け止め、本人の考えを尊重してあげることが大

切であることを、事例を交えて紹介いただくと共に、①子供たちの話を聞いてあげて②人として尊重してあげて③親の価値観「らしさ」を押し付けないで④無理なときは距離を置いて⑤保護者も一人で抱え込まないで⑥命の教育は親子で考えてなど、保護者としての在り方もご示唆いただいた。参加した保護者からは、次のような声が寄せられた。

- ・「自分らしさは自分で決める」すごく心に響きました。子育ての中で、こうあるべき、親としてこうしなきゃ、とかすごく思ってしまうけど、勇気を持てた気がします。
- ・「その人の考え方を尊重する」ことが大切であることが分かりました。子どもたちのそれぞれの考え方を大切に、日々成長を楽しみにしていこうと思います。

（２）家庭教育支援講座「スマホ・ゲームが子どもの脳や心の健康に与える影響」

講師に NPO かけはし代表の富岡ひとみ様をお迎えし、「スマホ・ゲームが子どもの脳や心の健康に与える影響」と題して、講演をいただいた。

本校児童のスマホ所持率は、学校全体で約 37% とほぼ全国平均である。4 年生以上の所持率は 4 割、中でも 6 年生では 6 割を超えており、これは全国平均を大きく上回っている実態がある。情報社会の進展、ICT 教育の普及などの社会の変化に加え、「みんな持ってる」「みんなやってる」な



【ワークショップの様子】

どの子どもたちのキーワードが、保護者にとって、子どもたちにスマホを持たせるハードルを大きく下げる要因になっていると考える。今回の講話では、「オンラインゲームは、覚醒剤並みの脳への刺激がある」「スマホ依存症になってしまうと治すことができない」など、スマホ・ゲームが子どもたちの脳や心の健康に大きな影響を与えることを学び、デジタルツールの与え方や使い方を改めるよい機会となった。参加した保護者からは、次のような感想が聞かれた。

- ・「スマホやゲームをしているときは、脳は動いていない」と知り、ショックでした。何となく与えてしまったゲームが、子どもの脳に悪影響があると知り、とても怖くなりました。この件について、家庭でも話し合いたいと思っていたので、よいきっかけになりました。また、他のお母さん方の話も参考になりました。

6 研究の考察

年 5 回、ワークショップ形式の講演による家庭教育講座を実施したことで、子どもたちを取り巻く様々な課題に対し、親としての見識を高めると共に、それぞれの課題に対し、親として子どもたちとどう向き合っていくか学ぶことができた様子を、保護者アンケートや感想から伺うことができた。

7 成果と今後の課題

ワークショップ形式を取り入れ、保護者同士の意見交換の場を設けたことで、親としての思いや悩みを共有でき、親としての在り方、意識を高めることにつながった。

今後も子どもたちを取り巻く様々な課題を取り上げ、多くの保護者の学びの場となるよう運営方法や講座内容を PTA 役員と考え、さらに魅力的な家庭教育支援講座となるよう努めていきたい。